

**県土整備部発注工事におけるICT活用工事（ICT河川浚渫工）の試行要領**  
**【発注者指定型】**

**（趣旨）**

**第1条** この要領は、県土整備部が発注する工事において、「ICT活用工事（ICT河川浚渫工）【発注者指定型】」（以下、「ICT河川浚渫工」という。）を試行するために、必要な事項を定めたものである。

**（ICT活用工事）**

**第2条** ICT河川浚渫工とは、以下に示す全ての施工プロセス（①～⑥）においてICTを活用する工事とする。

**【施工プロセス】**

**① 3次元起工測量**

起工測量において、下記1)～2)の方法により3次元測量データを取得するために測量を行うものとする。

起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での3次元納品データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもよい。

1) 音響測深機器による起工測量

2) その他の3次元計測技術による起工測量（※）

（※）従来の断面管理においてTSを用いて測定し、計測点同士をTINで結合する方法で断面間を3次元的に補完することを含む。

**② 3次元設計データ作成**

発注図書や①で得られたデータを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。

**③ ICT建設機械による施工**

②で得られた3次元設計データまたは施工用に作成した3次元データを用いて、下記1)～2)に示す技術（ICT建設機械）により施工を実施する。

1) 3次元マシンコントロール（バックホウ）技術

2) 3次元マシンガイダンス（バックホウ）技術

**④ 3次元出来形管理資料等の作成**

③により施工された工事完成物について、ICTを活用して施工管理を実施する。

<出来形管理>

下記1)～3)のいずれかの技術を用いた出来形管理を行うものとする。

1) 音響測深機器による出来形管理技術

2) 施工履歴データによる出来形管理技術

3) その他の3次元計測技術による出来形管理技術

**⑤ 出来形確認及び検査**

現地で出来形計測を行い、3次元設計データの設計値と実測値との標高差等が規格値内であるかを検査する。

**⑥ 納品**

①～⑤にかかる全てのデータを工事完成図書として納品する。

**(対象とする工事)**

**第3条** ICT河川浚渫工の試行対象工事は、設計額5,000万円以上かつ、下記工種による浚渫土量2,000m<sup>3</sup>以上の全ての発注工事を対象とする。

- 1) 浚渫工（バックホウ浚渫船）  
・ 浚渫船運転工
- 2 従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。

**(試行対象工事の報告)**

**第4条** ICT河川浚渫工を指定型として発注する際は、監督員から技術企画課へ連絡することとする。

- 2 技術企画課は、概ね四半期毎に発注状況等の調査を行い、調査結果をとりまとめることとする。

**(発注)**

**第5条** 発注に当たっての積算基準は、別途定める「土木工事標準積算基準書」により、ICT施工にかかる経費を計上する。

- 2 発注機関は、試行工事の発注に当たり、入札公告にICT河川浚渫工であることを明示するとともに、特記仕様書を添付し発注手続きを行うこととする。

**(設計変更)**

**第6条** 発注者は、別途定める「土木工事標準積算基準書」に基づき、3次元起工測量・3次元設計データ作成および3次元出来形管理にかかる経費を設計変更により計上する。

**(工事成績)**

**第7条** ICT河川浚渫工を第2条に示す全ての施工プロセスで実施した場合は、工事成績の「創意工夫」項目で5点を加点するものとする。

**(監督・検査)**

**第8条** ICT河川浚渫工を実施した場合の対象工種の監督・検査は、国土交通省が定めた「ICT河川浚渫工に関する基準」により行うものとする。

表1 ICT河川浚渫工に関する基準

施工	1	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）河川浚渫工編
検査	2	音響測深機器を用いた監督・検査要領（河川浚渫工事編）（案）
	3	施工履歴データを用いた監督・検査要領（河川浚渫工事編）（案）

**附 則**

この要領は、平成30年8月1日から施行する。

令和元年8月22日改定（令和元年9月1日適用）

令和2年6月22日改定（令和2年7月1日適用）

令和3年6月28日改定（令和3年7月1日適用）